

東海第二原発（茨城県東海村）は、運転開始から 40 年を超えた老朽原発。
事故が起きてても避難は不可能。しかし、2018 年 11 月 27 日、原子力規制委員会はさらに
20 年の運転延長を認可した。

*原子力規制委員長であった田中俊一さんは「規制委員会は、規制基準に適合しているかどうかを
判断するだけであり、安全を保障する機関ではない」と明言している。

指摘されてきた東海第二原発の主な問題点

1. 耐震基準が甘かった 40 年以上前の設計。（1973 年工事着工、1978 年運転開始）
2. 被災原発。東日本大震災で 5.4m の津波に襲われた。非常用発電機の冷却に必要な海水ポンプを囲む 6.1m の壁の高さまでわずか 70cm。工事が未完了だった北側から津波が侵入。自動停止。外部電源喪失。非常用発電機 1 台も停止。残りの非常用発電機 2 台を運転し、3 日半後、ようやく冷温停止となった。“2 日前に”完成した防潮堤のかさ上げ工事が無かったら、福島第一原発同様の事故が首都圏に起きた。
3. 敷地海拔が低いため、津波が防潮堤を越える確率が高い。
4. 炉心損傷率は極めて高い。（今までの事故・故障件数 261 件）
5. 福島第一原発同様、電源盤が地下に設置されている。
6. 地盤が著しく軟弱。（そのため、建屋の直下が人口岩盤になっているほど）
7. 大半が耐用年数（10～30 年）の尽きた燃えやすいケーブル。総延長 1400km の内 6 割強が燃えやすいケーブルのまま残される。発火し、火災が発電所全体に広がる。
8. 長期停止後の再稼働は超危険。（2011 年以降停止中）
9. 近くには使用済み核燃料や核廃棄物（原爆 5 千発分）が保管⇒複合災害！
10. 我孫子まで 85km。首都東京の端までたった 100km。30km 圏内に 94 万人が居住、3661 万人（2019 年現在）が生活する首都圏が 200km 圏内にすっぽり入る。
11. 避難は不可能！（バス 1,000 台でも 5 万人。94 万人は？道路は渋滞。）
12. 経理的基礎なし。3500 億円超の安全対策費を自力で調達できない。返済もできない。（福島第一原発事故を起こし、廃炉費用や賠償費を払えない東電が、2200 億円超を支援することが判明！）

後藤政志氏が指摘する危険性

今回の講演では、安全の要の格納容器の役割と設計の矛盾について解説します。

「安全とは何か」「故障と事故の関係」「原発が、なぜ事故を防げないか」等々、技術者の視点から、
原発の危険性の根拠を解き明かします。

<あびこ市民プラザ> アクセス

（あびこショッピングプラザ 3F） 駐車場あり

【車】 取手方面から：国道 6 号我孫子駅入口交差点前 左折
柏方面から：国道 6 号線我孫子駅入口交差点 右折、
一つ目信号左折

【電車】 常磐線/成田線「我孫子駅」北口より北へ徒歩 5 分
・上野～我孫子（JR 快速：32 分）
・東京～上野～我孫子（JR 上野東京ライン：37 分）

